

[成果情報名]10月下旬開花の黄色秋小ギク品種「長崎 AYC1」

[要約]「長崎 AYC1」は、長崎県における自然開花期が10月中～下旬で、花色が黄の秋小ギク品種である。無効側枝の発生がほとんどなく、側枝は立性、葉は小型・立性であり、出荷調整や花束加工しやすい形状を持つ。

[キーワード]秋小ギク、黄色、フラワーフォーメーション

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・花き・生物工学研究室

[代表連絡先]電話（代表）0957-26-3330（直通）0957-26-4326

[分類]普及成果情報

[背景・ねらい]

資材等生産コストの上昇により施設花き経営が厳しい状況にある中、長崎県では、近年、露地栽培により低コスト生産が可能な小ギクの作付推進を図っている。各産地において多くの品種が導入されているが、本県の気候や作型にあった品種が少なく、計画生産できていない現状がある。

そこで、栽培特性や品質、草姿に優れ、本県の気候や作型に適合したオリジナルの小ギク品種を作型別（7～12月出荷）、色別（白・赤・黄の3色）で育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 「長崎 AYC1」は、長崎県農林技術開発センターセンター保有のかば色の秋小ギク選抜系統の自然交配により得られた実生から選抜された品種である。
2. 花色は黄（RHS カラーチャート YELLOW GROUP 9-A）であり、管状花が開き始めるまでは緑心である（写真 1）。
3. 自然日長下において、6月下旬に定植し、摘心後整枝（3本/株）を行うと、10月中～下旬に開花する（表 1）。
4. 秋小ギクの黄色品種「きぼう」と比較すると、切り花の先端から下方 30cm より下に発生する側枝（無効側枝）の発生が少ない（表 1、写真 2）。
5. フラワーフォーメーションは 3 または 2（図 1）、側枝は立性、葉は小型・立性である（写真 1・2）。
6. 切り花品質は切り花長 91～114cm、80cm 調整重 44～84g であり、県切り花標準出荷規格の最上位規格 切り花長 80cm、調整重 50g 程度となる（表 1、表 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 普及対象：県内小ギク生産者
2. 普及予定地域・普及予定面積・普及台数等：長崎市、佐世保市、諫早市、壱岐市等、県内約 1ha
3. その他：県外への許諾に対応については、今のところ未定である。

[具体的データ]

表1 黄色秋小ギク品種「長崎AYC1」および対照品種「きぼう」の開花特性^z

系統・ 品種名	試験 年度	栽培 条件 ^y	開花日 (月・日)	切り花 長 (cm)	切り花 重 (g)	頂花 下節 数 (節)	有効 側枝 数 ^x (本)	無効 側枝 数 ^w (本)	80cm調整		花径 ^u (mm)	FF ^t	調整重 ^s (g)	
									後無効 側枝数 (本)	花蕾数 ^v (個)				
長崎AYC1	2013	平張	1028	97.7	115.9	-	11.0	0.5	-	38.3	44.8	7.3	3	84.0
	2014	平張	1022	113.5	99.8	59.3	6.2	0.0	0.0	27.7	46.2	6.0	3	60.8
	2015	平張	1018	106.3	83.5	54.3	9.0	0.0	0.0	20.0	43.3	5.6	3	55.0
	2015	露地	1019	91.1	70.5	53.5	10.0	0.0	0.0	19.2	42.0	5.0	2~3	52.4
きぼう (対照)	2013	平張	1028	105.3	156.3	-	9.7	10.0	-	36.7	36.0	5.6	3	70.3
	2014	平張	1027	112.2	130.0	55.7	5.0	5.0	2.8	27.0	37.0	4.8	3~4	49.8
	2015	平張	11.5	112.1	120.2	59.2	6.5	2.8	2.8	27.0	37.0	4.7	2~3	59.2
	2015	露地	11.5	110.3	167.0	55.8	5.7	5.3	2.3	21.2	38.3	4.2	3~4	49.6

z) 平均的な6本の調査による平均値 -は調査省略

y) 試験場所は長崎県農林技術開発センター(諫早市貝津町、標高15m)、
栽植方法は畝幅120cm、条間40cm、株間10cm 2条植え(12,000本/10a)

x) 切り花先端から下方30cmのところまでに発生した花蕾を持つ側枝

w) 切り花先端から下方30cmより下に発生した花蕾を持つ側枝

v) 花蕾数は開花した小花数と直径5mm以上の蕾数、花径は全開した頂花で測定

u) 茎径は最下位の有効側枝の直下で測定

t) FFはフラワーフォーメーション(図1参照)

s) 調整重は切り花を長さ80cmに調整した後、有効側枝以外と下葉(20cm)を除去して測定

r) 平張施設: 防虫ネットを被覆した平屋根型の簡易的な施設

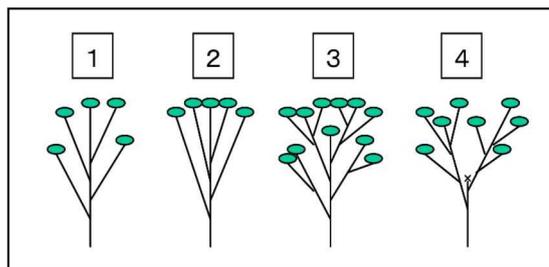


図1 小ギクのフラワーフォーメーション



写真1 「長崎AYC1」の開花状況



写真2 小ギク草姿

左: 「長崎AYC1」
右: 「きぼう(対照)」

(池森恵子)

[その他]

研究担当者: 池森恵子、竹邊丞一

発表論文等:

1) 池森、竹邊(2016) 九農研発表要旨集、p.27

2) 池森ら(2017) 長崎県農技セ研報、投稿中